

# 小学生のスマホは慎重に いじめ、犯罪のおそれも

令和3年5月13日 産経新聞

スマートフォンが小学生にも普及する中、会員制交流サイト（SNS）をめぐるトラブルも増えている。友人間でのネットいじめに発展したり、犯罪に巻き込まれたりするケースも。だが、SNS上でのトラブルを学校や保護者が把握するのは難しい。どのようにスマホを使わせるべきか、慎重に考える必要がある。

大阪府東部に住むパート勤務の女性（48）は、3年前に次女（13）が巻き込まれたSNS上でのトラブルが、今も尾を引いていると話す。

■炎上、不登校に

小学5年生だった次女が訪問先で撮影した犬の写真をフェイスブックに投稿したところ、グループ仲間の女兒が「他人の犬の写真を勝手に上げるのはルール違反」との趣旨をコメント。次女は許可を得たことを説明したが、その後はインスタグラムやティックトックなど、ほかのSNSにも写真や動画などを投稿するたびに批判され、“炎上”状態になった。

次第に「学校にもネットにも居場所がない」とふさぎこむようになり、今も学校を休みがちな状態が続いているという。

■被害、5年で倍増

短い言葉だけでやりとりするグループチャットは、大人同士でさえ誤解を招きやすい。SNSには高度なコミュニケーションスキルが必要だが、生まれたときからインターネットが身近な子供たちは、ネットは使いこなせても、そこに潜む危険性を理解できているわけではない。

警察庁のまとめでは、昨年1年間にSNSをきっかけに犯罪に巻き込まれた18歳未満の子供は1819人。小学生の被害は12人増の84人で、5年間で倍増している。背景にあるのが、スマホの普及だ。

SNS上でのトラブルに遭遇した女兒も、学童保育

を卒業した小4のときに専用スマホを持ち始めた。母親の女性は「仕事で不在がちなので、スマホを持たせれば子供と連絡をとりやすく、安心できた」と話す。

■規約浸透せず

実は、ほとんどのSNSは13歳未満の子供の使用を認めていない。

| 主なSNSの利用可能年齢       |        |                                                     |
|--------------------|--------|-----------------------------------------------------|
|                    | 利用可能年齢 | 13歳未満の利用                                            |
| LINE(ライン)          |        | 利用推奨年齢は12歳以上                                        |
| Twitter(ツイッター)     | 13歳以上  | 保護者の同意が必要                                           |
| Facebook(フェイスブック)  | 13歳以上  | 認めない(保護者の監督下でも不可)                                   |
| Instagram(インスタグラム) | 13歳以上  | 認めない                                                |
| TikTok(ティックトック)    | 13歳以上  | アプリを使用できない                                          |
| YouTube(ユーチューブ)    | 13歳以上  | 保護者が許可すれば利用できる。子供向けのYouTube Kidsもある<br>※各SNSの規約から抜粋 |

東京都が今年、行った調査では、SNSの利用に年齢制限があることを知らなかった保護者は41・8%と、半数近くに上った。

SNSを使っていなくても、オンラインゲームのチャット機能を使えば、不特定多数とのやり取りは可能だ。昨年9月には、横浜市で小4女兒がスマホ向けオンラインゲームのチャット機能で知り合った男に連れ去られる事件が発生している。

内閣府の昨年度の調査では、子供が具体的にどんなサイトを見ているのかなど、利用状況まで把握している保護者は40・3%だった。

兵庫県立大の竹内和雄准教授は「どうしてもSNSを子供に使わせたいなら、どのように使用しているかを親がもっと監督すべきだ」と指摘。「子供にいつからどのようにSNSを使わせるべきか、社会全体で議論する必要がある」としている。

# ふるさとの先輩から 本田尚一さん(昭和46年3月 御船中卒業)

中学校を卒業して半世紀。私の思い出は、中体連大会（軟式テニス部）、生徒会活動、文化祭（合唱コンクール）、弁論大会等があります。その中で、最も心に刻まれているのは駅伝と受験勉強の両立でした。

中学3年の夏、部活動は郡中体連3連覇を達成し、受験勉強にシフト変換という時期になっていました。その時、恩師芥川満先生（当時体育主任、御船町在住）から、「陸上競技大会や駅伝大会に出てみないか」とお誘いを受けました。程なく、各部から招集された20人程が、御岳中学校での合宿から始まり、毎日ハードな練習と受験勉強の両立に挑むこととなりました。

日課は、朝夕の課外と普通授業を併せ9時間授業。放課後は陸上の練習があり、肉体的にも精神的にも厳しい毎日となりました。当初いたメンバーも一人、二人・・・と減っていきました。長距離走の記録向上と受験勉強への取組みの両立で、焦りと不安な気持ちがピークになりました。「苦しい」「逃げ出したい」。しかし、やるしかありません。そんな私たちに厳しくも優しくご指導いただいた先生方、物心両面で支えてくれた親、互いに励まし合った仲間たちの存在は大きく、おかげで何とか乗り切ることができました。陸上競技大会の結果は満足するものではありませんでしたが、それでも代表2000mで6位入賞。駅伝大会では団体3位、個人で区間2位。高校受験では希望校合格を勝ち取ることができました。本当にお世話になった方への感謝と充実感・達成感でいっぱいになりました。

今でも、同窓会で昔話に花が咲きます。あれから50年。これまでお世話になった方々への恩返しは出来たのだろうかと振り返る今日この頃です。

最後に、御船中学校生徒諸君へ次の言葉を贈ります。「負けるな、負けるな。今の自分に負けるな。一つ一つに勝ちきって大声で笑おうじゃないか。そして今を楽しもう。」グッドラック！